

Title	青木得三著 貨幣論
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.4 (1916. 4) ,p.582(168)- 586(172)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160401-0168

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

著者は經濟論の部に於て冒頭今次の大戦亂が如何に我國の貧弱なるを遺憾なく曝露せしかを指摘し、次に我國民が大に發憤して進取的經濟政策を執る可きを德慝し、進んで歐米に對する我債務と貿易の消長との關係を明かにし、轉じて日英佛獨等の兌換制度を略叙して我國の在外貨問題に論及し、再轉じて資本の需用供給に對して戦争が既に及ぼしつゝある且つ將來及ぼす可き影響を細論し、最後に輸出貿易獎勵策並に國產獎勵説を論評せり。

社會問題論の部に於ては著者は施療、給藥、濟生會、小口保險等の所謂社會政策を拉し來りて我政府が最近に於て採りつゝある救貧的政策が社會改良の根本義に觸れざる枝葉の施設なる所以を高調せり。

本書は經濟界並に社會の重要問題を總て網羅せるにはあらねども、其の緊要なるものゝ一部に對して理論に偏せず、又乾燥無味なる史實統

計の編纂に走らず、穩健にして而かも犀利なる筆勢を以て平易簡潔なる説明を與へたるものなれば全く經濟學の素養なき者と雖も、本書に依りて我國のみならず、歐洲諸國の經濟狀態並に重要經濟政策及び社會政策問題の一斑を窺ひ、以て人生の最大部分を占むる經濟的活動に關する知識を涵養するを得可く、又既に多少此知識を有する者も本書に依りて特種問題に對する著者の見解に接し啓發さるゝ所少からざる可し。

青木得三著 『貨幣論』

大正五年一月東京廣松堂發行
菊版三百八十五頁定價金壹圓五拾錢

著者青木法學士は職を大藏省に奉する傍ら専修大學に於て貨幣論並に銀行論の講義を擔任せられつゝあり。吾人の茲に紹介せんとする『貨幣論』は即ち此講義の稿本を補正せるものなりと云ふ。

本書は之を第一編緒論、第二編貨幣靜態論、第三編貨幣動態論並に第四編紙幣論に分ち、緒論に於ては冒頭効用、價值等の概念を説明し、貨幣の職分を明かにし、交換の媒介は貨幣の不可缺唯一の性質なることを詳論し、貨幣が價値の標準として用ゐらるゝは交換の媒介物としての貨幣の職分より自然に生ずる現象なりと説き轉じて貨幣として用ゐらるゝ物質の具備す可き特質を詳説せり。

貨幣靜態論に於ては貨幣制度に對する概括的解説を與へ、貨幣の鑄造に關する技術、規定並に手數料を説明し、次に貨幣流通並にグレシヤムの法則を説き、轉じて日本及び重要諸外國の貨幣制度の現狀並に沿革を略述し、最後に萬國兩本位制に對する運動を概叙したる後金貨の統一を圖る可きことを唱道して編を結べり。

貨幣動態論に於ては貨幣數量説の見地より貨幣の購買力の騰落を論じ、金銀産額の増加が貨

幣の供給を増加するに至れる事情を略叙し、貨幣流通高が金利歩合に及ぼす影響を詳説し、轉じて信用の循環並に恐慌の意義に論及せり。

第四編紙幣論に於ては先づ不換紙幣の本質を明かにし、不換紙幣は兌換紙幣の一變態なりとの説を駁し、前者が寧ろ後者に先だちて行はるゝことあるを説き、不換紙幣の長短を論駁せる後轉じて兌換紙幣に論及し、其發行者、伸縮性並に引換に關する種々の保證及び規定を詳説せり。

以上は本書内容の一斑を列舉せるに過ぎざるが、全體の結構より之を概評すれば、著者は單に理論のみを説述するに満足せずして、隨處に貨幣制度の實際、殊に史實を敘述し、以て理論と實際との關係を闡明するに銳意努力し、又獨斷的推定に陥るるを避けんが爲め泰西貨幣論專攻學者の持論を引用するを怠らざる等、其の用意周到なるを示せり。所説概ね穩健、敘述又概

して明瞭なり。されば吾人は我國に於ける貨幣論研究者が更に一好良參考書を得たるを欣ばざるを得ざるなり。

されど、二三望蜀の希望を述べるとせば、著者は第一章第一節(一一三頁)に於て『效用』を以て『財貨の有する欲望を満足せしむる能力又は性質』なりと説き、『價值』に對して『人類が其欲望を満足せしむるに必要なものとしてある財貨の一定量を尊重する程度』なる定義を與へながら、『效用』と『價值』とは同一物なるにや、將た又異なる物なりや、若し異なれりとせば如何なる點に於て然るかを明かにせざりしは吾人の遺憾とせざるを得ざる所なり。

次に著者は第二章第一節に於て貨幣の本質は貨幣が交易の媒介たるの一事に存するに外ならずと論じ、支拂の要具たる貨幣の職分は貨幣の本質の一部を構成せず(一二三頁)と力説せられたるが、著者が斯くの如く貨幣の本質を狹義に解

説と一致するものにして、吾人の雙手を擧げて賛成する所なるも、著者の提案の如く七グラムを以て統一金貨の標準とせば、拉典並スカンデナビア貨幣同盟國の現行金貨幣との開き二割内外に上る結果として、此等諸國に於ける物價並に債務に如何なる影響を及ぼす可きか、又如何なる方策に依りて其影響を最少限度に限定せしむるを得可きかに就きて何等の説明なきを遺憾とす。

次に、著者は金利と貨幣數量との關係を説明するに及んで、『貨幣數量の大小は其自身に於ては金利に何等の變化を生ぜずと雖も、小數量より大數量に、又は大數量より小數量に趁く變化は、金利に相違を生じ得べく又實際に之を生ず』(二百十二頁)と論じられたるは吾人の賛成する所なりと雖も、貨幣數量の増減に因づく金利騰落に對する著者の説述は聊か明晰を缺くの憾みなき能はざるなり。著者は政府が若し貨物を購

せられたるは貨幣の本質をば單に歴史的に講究せられたる爲めに非ざるか。支拂要具たる職分は貨幣が交換の媒介物たる事情より發生せしものなるは著者所説(二二二頁)の如くなるも、貨幣の現在より之を觀れば、貨幣が支拂要具として重要な任務を有するは著者の言はるゝ如く(同頁)果して『極めて稀有』のことなるや。假りに著者の如く史的發達のみを論據として貨幣の本質を求むるとせば、著者の如く貨幣を以て交換の媒介物と説明するに満足せずして、更に其本質の歴史的發達を遡究して、貨幣を以て最も需用多き貨物と定義す可きに非らざるか。

又第四章第二節に於て著者は造幣手數料を徴收せざるを以て得策なりとし、其の理由として二三の論點を擧げられしが(一〇〇—一〇三頁)多くは枝葉の點にして手數料非徴收説の論據としては頗る薄弱なるが如し。

著者の萬國金貨統一論(第八章)は吾人の持買する爲めに不換紙幣を發行せば、物價騰貴す可きに由り金利は上騰するに至るも、(三百十一頁)若し民間の企業家が銀行より紙幣を借用せば、金融界の通貨膨脹するが爲め金利は下落す可しと論せり。(三百十二—十三頁)されど、不換紙幣の發行と兌換銀行券の膨脹とは何故に金利に對して正反對の影響を及ぼす可きものなりや不換紙幣の發行の物價を騰貴せしむ可きものならば、何故に兌換券の膨脹も物價を騰貴せしめ従つて金利を騰貴せしめざるや。又兌換券の發行が通貨を膨脹せしむる結果として金利を下落せしむるに至るとせば、如何なる理由ありて不換紙幣の發行が通貨を膨脹し、延いて金利を低下せしむることなしと云ひ得るか。吾人は此等の點に對する著者の説明を聞くを得ざるを遺憾とす。

又著者は恐慌の意義及分類(第十四章)に關して多數學者の所説を引用すれども、著者自身

の説に就きては多くを言はず、且つ貨幣と恐慌の關係に對しては殆んど何等論及する所なし。本書の敘述は前述の如く概して明瞭なるも、間々難解の字句なきに非ず。殊に第十三章第五節は最も甚だしき一例なりとす。最後に邦書に有勝の誤植は幸ひに本書に於ては其數多からざるが如し。唯心付きたる點の一二を列舉せば、百〇九頁グレシヤムの法則 (Greciums Law) 百十二頁ヘルバルト、スペンサー、二百二十六頁 Took 氏、二百三十一頁 Le Kôle de la Monnaie 等なりとす。

前號(第三十卷)目次(大正五年三月號)

論說

英國の強制徵兵制度 慶應義塾 大學教授 占部百太郎
 戦後の經濟的革新(三) 慶應義塾 大學教授 阿部 秀助
 時と場所と物に依る海上 慶應義塾 大學教授 板倉 卓造
 捕獲權の制限 慶應義塾 大學教授 田中萃一郎
 墨銀考補遺 慶應義塾 大學教授

雜錄

歐洲諸國の戦費と戦時財政 法學博士 堀江 歸一
 公關工業研究所に對する私見(下) 山崎 繁樹
 日支銀行法案概評 三宅嘉十郎
 英國の對米放資回收に關する 堀江 歸一
 規程一斑 村田岩次郎
 貴衆兩院論 山崎 宗直
 英國の土地法

編輯主任

高城 仙 歸一

一冊定價 金二十五錢 郵税金壹錢五厘

一ヶ年前金 金二圓七十錢 郵 稅 共

編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
 營業に關する用件は發賣元宛
 原稿締切期日は發行の前月十日限

大正五年三月廿九日印刷納本
 大正五年四月一日發行 每月一回一日發行

三田學會雜誌 轉載 第三十卷第三號
 編輯兼發行所 東京市芝區三丁目三番地慶應義塾内
 印刷所 東京市赤坂區新坂町五十九番地
 印刷者 金子 榮太郎
 東京市赤坂區新町五丁目四十四番地
 印刷所 金子 活版所

發賣元 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 粗山書店
 振替貯金口座東京二四二七番
 電話本局二二三三番

尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會